



PEN インターナショナル
ジミー・リブマン・インタビュー

(音楽)

ナレーター：

ジミー・リブマンは、クッキーのレシピを完璧なものにするために過ごした何時間もの時間は報われるものといつも思っていました。ロチェスター工科大学の国立ろう工科大学を卒業後、ニュージャージー州ウェスト・オレンジで自分の会社「ギミー・ジミーのクッキー」を創業し、家族に伝わる評判のよいレシピを試してみることを決心したのです。

リブマン（通訳を通して）：

私はいつも自分の会社を持ちたいと思っていて、何年も前からそれがゴールでした。

そのとき母が、「クッキーの会社を作ったらどう」と言ったのです。でも母の言うことに耳を貸しませんでしたし、母の言っていることに注意も払いませんでした。母は「やってみればいいじゃない」と言いました。それで、実験として、いろいろなクッキー店に行き、ただどんなクッキーを売っているのか見てみるために、いくつもの違ったクッキーを食べてみて試し、サンプルを持ち帰りました。そして「これはおもしろい。うちの母親のクッキーが一番おいしい。特にこれらのクッキーと比べたら」と心の中で思いました。

そして母に、「うん、クッキー会社を試してみようかなと思う。少なくとも実験的にはやってみる」と言いました。そして母にクッキーの作り方を学び、私の故郷のこの町で始めようと決めたのです。人々にクッキーの無料サンプルを配ると、みんな「クッキーがすごく気に入った」と言ってくれました。食べた人はみんな同じことを言いました。「とても気に入った。とても気に入った」と。でもうちにあったオーブンは小さすぎて、時間がかかりすぎたのです。父は商業用オーブンを買うべきだと決めました。新しい機械を買って、父は家の裏口の側の地下室の近くに置きたがったのですが、残念ながらオーブンは大きすぎて裏のドアからは入れられませんでした。ですからすべてを正面のドアから入れて、居間に置きました。そしてそこで実験と練習をしたのです。ものごとはうまく行き始めました。多くの人たちがクッキーを求めて来たのです。売り上げはどんどん増え、とてもよいスタートでした。

店を居間からビルに移しました。商売はどんどん大きくなり、その時点で一緒に働いてくれる従業員を雇うことに決めました。職業リハビリテーションを通して聴覚障害の従業員を二人雇うことが出来ました。それから健聴者で手話の出来る秘書を雇い、秘書が直ちにみんなの通訳をしてくれました。私たちの間には大変



PEN インターナショナル
ジミー・リブマン・インタビュー

好ましい関係が築き上げられました。みなとても仲良くやっています。

(ジャズ風の音楽)

毎日、私たちは仕事に来て、一日中クッキーを作ります。クッキーは 19 種類あります。おはようございます。ギミー・ジミーです。

リブマン：

でも電話をかけるのは朝です。スーパーマーケットに連絡し、ファックスを受け取り、うちでやっている企業プログラムもありますからいろいろな場所から注文を集めなければなりません。それから缶を詰め、UPS かフェデラル・エクスプレスで出荷します。一日 50 から 200 缶の時もあり、300 缶出荷しなければならない時もあります。クリスマスシーズンの 12 月にはそれが 1000 缶、2000 缶になり、一日 3000 缶出荷することもあります。この時期はそれが普通なのです。うちの従業員はすばらしいです。本当に手早くて、素早く作業を進め、早さで多くの労力を節約してくれます。私は聴覚障害者ですから、店には特殊な照明システムが装備されています。ライトのおかげで何が起きているかわかって助かり、とてもうまく機能しています。すばらしいアイデアでした。すみません、クッキーをください。そして、聴覚障害者を 3 人雇いましたので、彼らも同様に照明システムに頼っているのだということがわかりました。だから、とてもうまく行っています。

インタビュアー：

クッキーの成功の秘密は何でしょう？ クッキーです。正直に言って、ええ、黙っていても売れるのです。

リブマン：

いろいろな有名人の特別な写真を持っています。時々有名人から手紙をもらうことがあります。たとえばレーガン大統領がうちのクッキーを食べて、「ありがとう」という手紙を送ってくれ、クッキーがどんなにすばらしいか書いてくれました。母はいつも、ロコミは商売にはすばらしい方法だと言っていました。それが最良の広告だ、そして人びとがそれについて話し始めたとき、商売が大きくなるのだ、と。私はとても満足していて、一緒に働いてくれる人たち、商売を手助けしてくれる人たちを信用していますから、心配は何もありません。彼らはすばらしい仕事をしてくれますし、長い間ずっとそうしてくれています。その理由のひとつは、私たちはチームとしてうまく働いているからだと思います